

公益の風 #56



東北公益文科大学大学院 公益学研究科長

武田 真理子

東北公益文科大学大学院の関係者による「風」は、お陰様をもちまして、本稿で56回目の掲載となりました。コロナ禍の2021年7月より変わらぬご高配を賜りました。庄内日報社様に深く御礼申し上げます。

「25周年を迎えた東北公益文科大学」

東北公益文科大学は今年、25周年を迎えます。2001年4月に、慶應義塾大学の知的支援と山形県及び庄内14市町村(当時)の財政支援を受け、公設民営方式の私立大学として開学し、多くの方々のご支援とご指導により少しずつ成長を遂げることができました。酒田キャンパスを学び舎とする公益学部公益学科は、2025年9月までに3837名の卒業生を輩出しました。鶴岡キャンパスを学修・研究拠点とする大学院公益学研究科は、2025年9月までに172名の公益学修士と5名の公益学博士の学位を授与しています。大変なことに、学部卒業生、大学院修了生とも、県内外の企業、行政機関、公益法人、NPO、学校、その他の団体等で活躍をしています。近年は、学部・大学院授業へ卒業生・修了生を外部講師として招聘する機会が増えています。また、本学が主催する小中高校生向けの教育プログラムに、卒業生のお子さんが参加してくれるようになりました。新聞記事やテレビ番組を通して卒業生・修了生の活躍ぶりを知る機会もあります。東北公益文科大学は、ようやく「成人」として認められるようになったと感じています。



大学院 20 周年に修了生・関係者が集まりました。

2026年4月から、新たに国際学部を開設し、英語教職課程を立ち上げます。庄内の地から世界に羽ばたく人材を育成するとともに、「多文化共生コーディネーター養成プログラム」の開講などを通して、地域の国際化に貢献できる人材育成にも取り組みます。そして同じく4月には、私立大学としての歴史に幕を下ろし、公立大学法人へ移行します。山形県及び庄内2市3町から構成される庄内広域行政組合が公立大学の設立団体となります。建学時に掲げた「公益学の確立」と「大学まちづくり」は、新たな運営体制と、教育、研究、社会貢献の機能強化によって推進されることとなります。

史に幕を下ろし、公立大学法人へ移行します。山形県及び庄内2市3町から構成される庄内広域行政組合が公立大学の設立団体となります。建学時に掲げた「公益学の確立」と「大学まちづくり」は、新たな運営体制と、教育、研究、社会貢献の機能強化によって推進されることとなります。

た知識やスキルを応用、実践する場となり、自分事として地域課題に向き合う姿勢を養うことができました。

公立化後の大学は「産学官連携プラットフォーム」を設置し、教育活動だけでなく、学内の多様な知と産学官との連携による学際的かつ実践的な共同研究に取り組む方針です。大学院には、この共同研究と結びついた新たな教育プログラムを立ち上げる予定です。地域の持続的な発展には人々の学びが欠かせません。社会との接点を強めて、より多くの人が学び続けることができる知の拠点としてさらなる成長を遂げたいと考えています。

庄内日報社「敬天愛人」2026年3月号 (Vol.204) 掲載